

UTR - UNIVERSAL TENNIS RATING

THE WAY FORWARD FOR TENNIS

<テニスの進む道・UTR>

デーブ・マイリー

私は、UTRはこの5年の間にテニスに劇的な変化をもたらすであろうと考えています。過去30年のテニス界は指導偏重できていて、プレーを楽しんだり競技を楽しむことが十分にできていなかったと思います。沢山の人は、指導を受けることで満足して、プレーを楽しむことはありませんでした。”サーブ、ラリー&スコア”をスローガンにしたITFのプレー&ステイキャンペーンが成功裏に展開されているのは、テニスの面白さはボールをネット越しに打ち返し、それを打ち返してポイントを競うところにあることが伝えられているからなのです。この「プレーする」という言葉がとても大切なのです。この言葉は、そのまま「楽しさ」につながるからです。プレーをすることで、人々はテニスの虜になるのです。子供の頃の私は、正にその虜になりました。

私にとって健康的なスポーツというのは、多くの人たちが参加して楽しめるものです。プレーをすることから始まってそのスポーツを好きになり、そのうちに、テレビや試合会場でのプロの選手達のプレーを見たくなるのです。彼らは、上手になるためにレッスンや用具を購入します。私もコーチの1人ですから、指導をすることはとても大切なことだと思います。しかし、それが、プレーや競技に繋がらなければ意味がありません。

従来のテニスのいろいろなランキングシステムと違って、UTRは世界中で行われている国内国際レベルのあらゆる試合結果を収集分析して、正確なグローバルなランキンシステムづくりを目指しています。UTRは、それらの結果を基にして1~16の段階でそれぞれのプレーヤーのランク付けをします。（現在、ナダルは16.22で、ウォズニアッキは13.5です。）テニスのプレーヤーレベル評価のシステムとしては、最も正確なものです。というのは、ただ単に試合数だけでなく、スコアや、試合内容や、相手の強さなどを加味して判断しているからです。レベルが上のプレーヤーに負けたとしても、その試合で、セットを取っていたり、取得ゲーム数が多ければ、UTRのレベルがあがることもありえます。UTRの大会は、同レベルのプレーヤー同士の試合になることと最低の試合数を保証します。

現在、UTRは、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ブラジル、南アフリカ、フィリピンなど、世界全大陸に展開されており、ATPとWTAツアーや、ITFの男女のエントリーレベルのプロサーキットや、ITFジュニアサーキットや、アメリカの大学のテニスの試合の結果も取り込んでいます。

私のUTRでの役割の一つは、各国から全国レベルのジュニアやオープン大会の結果を集めることです。嬉しいことに、2017年には多くの国のテニス連盟や大会運営者が我が団体に加盟して、試合の結果を提供してくれたり、UTRを基にした同レベル同士の試合結果を提供してくれました。2017年後半には、オランダ、ベルギー、チェコ、ロシア、ノルウェー、トルコ、ニュージーランド、スロバキア、ポーランド、ベラルーシ、メキシコ、エクアドル、インド、そして、リトアニ

アがUTRに加盟して、各国のジュニアやオープン大会の結果を提供してくれました。また、最近では、テニスヨーロッパ、アフリカテニス連盟、オセアニアテニス連盟、アジアテニス連盟が加盟し、データを提供してくれています。

UTRを取り入れて、あらゆるレベルのプレーヤーを対象として活動を始めたそれぞれの国では、プレーヤもコーチもクラブもすぐにその恩恵を受けたという報告があります。人々により多くのプレーを促したり、クラブもプレーヤーを保持できるようになったのです。また、競技志向のプレーヤーや彼らのコーチたちにとっても、世界中の同レベルのプレーヤーとの正確な比較ができることが良い効果をもたらしています。

2年前からUTRにデータの提供を始めているイギリステニス協会の競技部門責任者のキース・カーダー氏は、「我が国のプレーヤーの皆さんがUTRを得るために、我々の持つデータをUTRに提供できるようになったことを嬉しく思う。……UTRと我が国既存のテニスレイティングとランキングシステムとは上手く機能するでしょう。そして、特にアメリカの大学でのテニスの機会を目指すプレーヤーにとっては特に役に立つことでしょう。」と語っています。

現在のテニス界の抱えている問題は、全てのランキングシステムに繋がりが無いことです。プロのランキングシステムを見てみましょう。現在、世界中にはATPやWTAの700位のプレーヤーよりも優れているプレーヤーが5,000人はいると思われまます。私は決してそれらのプレーヤーたちを軽んじてはいませんが、仕事や経済的な理由などでこれらの5,000人のプレーヤーたちは、ATPやWTAのそのレベルのランキングを得るためのポイントを取得するために動き回ることができないでいるのです。つまり、ATPやWTAの300位以下のランキングは、真の世界ランキングではないということです。それらのランキングプレーヤーはプロの下部大会に参加するお金と時間があるプレーヤーたちだということなのです。

ランキングシステムに相関性がないという不合理の例を上げてみましょう： ITFのジュニアランキング20位以内にいる選手が、ある日ATPの大会のワイルドカードを得てナダルと対戦して彼に勝ったとしても、素晴らしい結果にも関わらず、ITFのジュニアトーナメントでの結果ではないので、そのランキングには反映されないのです。世界のトップレベルの選手に勝ったのに、それが反映されないなんておかしいと思いませんか。

テニスはとても不思議なスポーツです。他のどんなスポーツでも、13才から14才の子供が、母国を離れて年に20週以上も旅をしなければならないということはありません。ITFジュニアランキング上位の選手にとっては、年に20-25週世界中を飛び回することは当たり前の事になっています。そして、多くの場合、このことは彼らが当たり前の教育を受けられないことにつながっています。上位の選手には、あまり外に出ないようにしている選手たちもいて、だからといってテニスのレベルが低下するわけではありません。世界レベルのプレーヤーでいるわけです。現時点のジュニアやプロの株トーナメントのランキングシステムは、あに図らんや、海外での活動を可能にさせる余裕のある家庭や協会に有利に働いているのです。

ITFジュニアサーキットで上位の成績を取めるためには、ITFのジュニア大会に照準を合わせなければならず、時には、自国や近隣の国での大会に出られないことも起きます。もちろん、トップジュ

ニアたちは両方に参加して、両方のランキングを得ることができ、ジュニアを卒業してプロツアーに入る時にゼロからのスタートをしないで済みます。そのためには、もっともっと海外に出なければならないのです。仮に、トップのジュニア選手がITFのジュニア大会を15大会、ATPフューチャーズを10週戦ったとすると、ATPとITFはそれぞれの成績だけを参考にします。スペインやフランスの賞金付き大会や、ドイツのブンデスリーガの大会は、ATP300位以下の選手たちにとっては魅力的な大会ですが、これらの大会にいくらレベルの高い選手が参加しているとしても、国際的ランキングに反映されることはないのです。

仮に、年間15週の休暇があるベルギーの16才のジュニアの選手を考えてみても、海外を25週回ることはできません。そこで、学校が休みの時に国外でのITFジュニアの大会10大会に参加して、国内大会8大会と、国内でのフューチャーズ6大会に参加したとします。このスケジュールで行けば、学校がある時に長期間の海外移動をしなくて済み、UTRはこれらの大会の結果を全て参考に、彼の本当のレベルをUTRで表示します。この方がずっと納得行くでしょう。よくあることで、当たり前なのに気づかずにいることが多いものです。

また、テニスにとってもったいないことには、ITFジュニアや、ATPやWTAランキングを持っているプレーヤーが、国際レベルでの競技をしなくなった場合、国内でそれに取って代わるような競技の機会がないことからプレーすることを止めてしまうことが起きます。こういった場合に、世界基準で運営されているUTRのようなシステムは、国際的競技から遠ざかったとしても、自分のプレーのレベルの向上を目指すプレーヤーにとっては、ある意味、ステータスシンボルとしてもやる気に繋がるのではないのでしょうか。

新しいITFトランジションツアーのアイデアは、あちこち移動しなくて良くなるわけではなく、移動することに関しては現状と変わりはないのですが、ATPとWTAのポイントシステムがなければ機能しないものです。私は、将来的には、UTRがこれに代わるものになって、ATPやWTAのチャレンジャーレベルの大会への参加基準となるランキング評価方式となると思います。なぜなら、より正確で、より公平で、いろいろな地域のプレーヤーを同一基準で評価できるからです。

私は、元ATPプレーヤーのマーク・レシリーが率いる素晴らしいテニスとIT専門家たちからなる素晴らしいチームで仕事ができることを嬉しく思います。そして、最近テニスチャンネルとオラクルが提携してくれたことに興奮を覚えています。ユニバーサル・テニスは、UTRを各国の競技志向のプレーヤーからクラブのレクリエーションプレイヤーまで、全てのテニスプレーヤーが使えるように、技術開発を進めています。

UTRは、間違いなくプレーや競技をより皆さんが実感できるものにできますし、多くのプレーヤーたちにこの素晴らしいゲームであるテニスをずっと楽しんでいただけることにつながるものと信じています。さあ、ご一緒に前に進みましょう！

【筆者紹介】 Dave Miley: ITFの元テニス開発部門責任者として、17年に渡りITFグランドスラム開発プログラムや、ジュニア、ベテラン、車いすテニスなどの活動を監督する。2001年から2010年には、ITFで技術とアンチ・ドーピング部門にの統括も行う。各国のテニス協会・連盟のコンサルティングや、指導者講習会やジュニアのトレーニングなどで、140ヶ国を歴訪。世界的なテニスの発展に重要な役割を果たし、"ITN"、"Tennis 10s"、"Tennis Xpress"などのプロジェクトを手

掛けた。また、5ヶ所のITFハイパフォーマンス・トレーニングセンターを立ち上げて監督し、ITFグランドスラム・ジュニアツアーリングチームを管理した。また、“Advanced Coaches Manual”、“ITF Schools Tennis Initiative Teachers Manual”、“Development of Young Tennis Players”、“Being a Better Tennis Parent” (JTA資料として鈴木翻訳) 等、多くのITF教育関連出版物を執筆。1992年には、“ITF Coaching and Sports Science Review”の編集を始め、2015年まで携わる。また、オンライン情報伝達サイトである“iCoach”も立ち上げる。現在は、アジアテニス連盟の開発部門顧問、UTRを開発したユニバーサル・テニスの国際顧問としての活動をしている。

【翻訳・監修】 鈴木真一 (PTRインターナショナル・マスタープロフェッショナル/クリニシャン)